2021年度満足度調査（英語科）

検証内容

今年度卒業の学生を対象として満足度調査を行った。質問にはカリキュラムの適切性や施設・設備・制度に関するもの、学生生活に関する質問を設けている。得られた回答は集計し項目毎の平均値を前年度のデータと比較した。また、本調査では、学習成果の到達度を学生に自己評価してもらっており、その結果と他の学内データと照らし合わせて総合的に分析した。

【アンケート回収率71.1%】（前年度74%）

【カテゴリ毎の満足度】

各数値の基準

満足：5、やや満足：4、どちらともいえない：3、やや不満：2、不満：1

そう思う：5、ややそう思う：4、どちらもいえない：3、あまりそう思わない：2、そう思わない：

【学生からのコメントのテキストマイニング】

《一番学びの大きかったこと》

《早くに知っておきたかったことやつまづきを感じたこと》

それぞれの項目の平均値を出し、前年度の平均値とその変化率を計算し違いをみていきます。

【カリキュラムの適切性】
10項目中、前年度より上がったのが6項目、下がったのが4項目で変化率が5%を超える項目は次の3つであった。
・国際交流プログラムが盛んだった（-28.1%）
・平和教育が充実していた（+8.0%）
・キリスト教への理解や関心が深まった（+6.6%）
入学時に実施した「新入生アンケート」の中でも海外留学に期待する学生が多かったため、コロナ禍の影響があったと考えられる。
記述式回答からも専門的知識や視野の広がりを学べた、というコメントがみられる。

【施設・設備・制度に関する満足度】
13項目中、上がったのが7項目、下がったのが6項目とおよそ半分に分かれているものの変化率は低下した項目が大きいため、満足度は前年度より低下していると考えられる。変化率が5%を超える項目は次の5項目であった。
・大学がクラブ・サークル活動に協力的だった（-7.5%）
・スポーツ施設などを自由に使うことができた（-11.1%）
・研究室・セミ室・実験室設備が充実していた（-7.8%）
・奨学金制度が充実していた（-5.4%）
・大学が親身に就職指導をしていた（+5.1%）

【学生生活に関する満足度】
11項目中、上がったのが2項目、下がったのが9項目で変化率が5%を超える項目は次の5項目であった。
・アドバイザーの先生と相談できる関係が築けた（+9.0%）
・OB/OGとの交流ができた（-10.4%）
・クラブ・サークル活動が楽しかった（-5.5%）
・たくさんの友人ができた（-6.4%）
・総合的にみて満足度はどれくらいですか（-5.2%）
記述式回答からも、先生との関わりについてのコメントがみられる。

学習成果の自己評価（短期大学）

学習成果の自己評価（英語科）

学生に対し本学で定める学習成果が卒業時にどれだけ身についたかを10段階で評価してもらった。

【短期大学の学習成果に対する自己評価】
上のグラフより学習成果[1]～[3]は70%以上が評価"7"以上をつけており、学習成果[4]についても評価"6"以上をつけており、自己評価は高いといえる。各学習成果の平均値も7.4～7.7の範囲にあり、項目における大きな違いはない。

【英語科の学習成果に対する自己評価】
上のグラフより学習成果[5][7][8]は自己評価の割合が似た傾向があり、65%以上が評価"7"以上の評価をつけていた。さらに学習成果[6]では約80%近くが評価"7"以上とさらに評価は高い。平均値においても、学習成果[6]は8.3と高く、他の学習成果より1.0ポイント程度差がある。多くの学生にとって多文化・異文化に関する知識理解が強く心に残っていると思われる。

2021年度満足度調査（保育科）

検証内容

今年度卒業の学生を対象として満足度調査を行った。質問にはカリキュラムの適切性や施設・設備・制度に関するもの、学生生活に関する質問を設けている。得られた回答は集計し項目毎の平均値を前年度のデータと比較した。また、本調査では、学習成果の到達度を学生に自己評価してもらっており、その結果と他の学内データと照らし合わせて総合的に分析した。

【アンケート回収率71.2%】（前年度70.2%）

【カテゴリ毎の満足度】

カリキュラムの適切性

施設・設備・制度に関する満足度

学生生活に関する満足度

各数値の基準
満足：5、やや満足：4、どちらともいえない：3、やや不満：2、不満：1
そう思う：5、ややそう思う：4、どちらもいえない：3、あまりそう思わない：2、そう思わない：1

それぞれの項目の平均値を出し、前年度の平均値とその変化率を計算し違いをみていきます。

【カリキュラムの適切性】
10項目中、前年度より上がったのが1項目、下がったのが9項目で変化率が5%を超える項目は次の3つであった。
・実践。実習を豊富に取り入れていた（-6.7%）
・国際交流プログラムが盛んだった（-24.5%）
・平和教育が充実していた（-5.3%）
国際交流プログラムの低下が大きく、コロナ禍の影響が強くでている結果となった。
記述式回答からは、学びの大きかったこととして、保育についての専門的知識とするコメントが多くみられるが、前年度と比べると満足度は低下している。

【施設・設備・制度に関する満足度】
13項目中、上がったのが4項目、下がったのが9項目で変化率が5%を超える項目は次の6項目であった。
・大学がクラブ・サークル活動に協力的だった（-16.4%）
・食堂・カフェが充実していた（-25.0%
・購買部が充実していた（-27.8%）
・スポーツ施設などを自由に使えた（-9.4%）
・研究室・ゼミ室・実験室設備が充実していた（-5.1%）
・就職関連資料が豊富だった（+5.0%）
今年施設がリニューアルされたことで、今後の満足度の向上に期待したい。

【学生生活に関する満足度】
11項目中、上がったのが1項目、下がったのが10項目で変化率が5%を超える項目は次の6項目であった。
・たくさんの友人ができた（-11.9%）
・OB・OGとの交流ができた（-23.7%）
・他大学との交流が盛んだった（-29.7%）
・クラブ・サークル活動が楽しかった（-21.6%）
・在学中に資格取得に積極的に取り組んだ（-6.3%）
・大学や学生が主催するイベントに参加できた（-14.0%）
満足度が低下したほとんどの項目がコロナ禍での制限のためと考えられる。今後の情勢も不安定なため、代替案も含めて満足度向上に向けての話し合いが大切である。

【学生からのコメントのテキストマイニング】
《一番学びの大きかったこと》

《早くに知っておきたかったことやつまづきを感じたこと》

学生に対し本学で定める学習成果が卒業時にどれだけ身についたかを10段階で評価してもらった。

【短期大学の学習成果】
上のグラフより、学習成果[2]と[3]のどちらも55%以上が評価"8"以上、70%以上が評価"7"以上をつけており他の2つの学習成果と比べても自己評価は高いといえる。学習成果の平均値は学習成果[1][2][3]は7.1～7.5の範囲にあるが、学習成果[4]が6.8と比較的低い。

【保育科の学習成果】
上のグラフより、学習成果[6]と[7]では65%以上が評価"8"以上、80%以上が評価"7"以上をつけて自己評価が高いといえる。
学習成果の平均値は学習成果[5][7][8][9]が7.3～7.9と高く、特に学習成果[6]は8.3とさらに高い。